

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： 言語教育センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <p>1. 英語系では、新英語カリキュラム科目担当教員および学生へのアンケート調査と共に、TOEIC-IPテストを実施する。このデータを用いて、1・2年次新英語科目の教育効果について検証し、カリキュラムの改善について検討する。</p> <p>2. 英語系では、グローバル人材育成特別コースの英語の授業方法を検討し、改良を図る。</p> <p>3. 英語系では、初年次における英語教育について教育効果の向上を図るため、継続して授業方法の検討およびFD研修を実施する。</p> <p>4. L-caféでは、学生の語学力の向上と異文化への理解を促すため、イベント数を増やしカフェ活動を充実させ、L-café利用者のさらなる増加を図る。</p> <p>5. 初修外国語系では、海外協定校との相互交流プログラムを実施すると共にカフェ活動を充実させることにより異文化への理解を促進する。</p> <p>6. 初修外国語系では、学生の履修状況を把握・検討の上、カリキュラムの改善を図る。</p> <p>7. 日本語系では、FDとして非常勤講師を含めた日本語教育研究会を開催する。</p> <p>8. 日本語系では、昨年度導入した新カリキュラムについて、履修生及び教員にアンケート調査を実施し、その効果及び問題点を明らかにする。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、平成25年度開始の英語新カリキュラムの教育効果について、担当教員・学生へのアンケート調査及び全学統一TOEIC-IPテスト結果をもとに検証及びカリキュラム改善について検討した。検討結果は平成28年度開始の新カリキュラムに反映させる。(年報、および教育開発センターに提出した「12月実施の全学統一TOEIC-IPテスト結果に関する見解」に報告)</p> <p>2. 英語系では、グローバル人材育成特別コースの英語の授業方法について検討し改良を図った。</p> <p>3. 英語系では、学生の英語レベル毎の教育効果の向上を図るため、Our Share、Reading Group等のFD活動をほぼ毎月行ったほか、Teacher Development Workshopを半期に1回開催した。</p> <p>4. L-caféでは、年間22回の国際交流イベントを実施した。さらに、前期は週17時間、後期は学生のニーズによる新規レッスンを含む週31時間の英会話やTOEFL等のレッスンを開講することにより、カフェ活動を充実させた。2月6日までの利用者数は20,133人だった。初修外国語カフェのうち、フランス語と中国語で週1回、日本語カフェは週2回、L-caféスペースを活用した。</p> <p>5. 初修外国語系では、7月28日～8月9日に第4回上海理工大学交流プログラムを開催し、12名の研修生を招き、3月15日～29日には12名の本学学生を上海理工大学での中国語研修に派遣、引率した。また、キャンパス・アジア事業の一環として、8月3日～23日開催の成均館大学校夏期韓国語研修に12名の本学学生を派遣、引率し、2月2日～21日には第9回成均館大学校交流プログラムを開催して成均館大学校から12名の研修生を招いた。ドイツ語、フランス語、韓国語の各語学カフェについては週1回、中国語カフェは週2回開催し、留学生との交流や外国語実践の場を定着させた。また、フランス語と中国語では、6月に5日間、昼休み時間を利用した留学生による少人数発音レッスンを実施した。</p> <p>6. 初修外国語系では、4月に新入生全員に、2月には履修生全員に、パンフレットを配布し、本学で履修可能な初級から上級までの初修外国語科目学習について学生への周知を図った。その効果として初修各語種間に見られた履修者数の不均衡が一部改善されたほか、中級の履修者が定着しつつあることを確認した。また、平成28年度からの60分授業・クォーター制にもとづくカリキュラム改編に向けた開講コマや時間割など基本的な授業計画の策定を行った。</p> <p>7. 日本語系では、日本語教育研究会を6回開催した。(年報)</p> <p>8. 日本語系では、日本語コースを履修している留学生を対象にアンケート調査を行った。また、日本語科目を担当した教員を対象に、授業内容および改訂カリキュラムの改善点等についても調査を実施した。調査の結果、新カリキュラムは概ね肯定的に捉えられていたが、改善点も明らかになった。(『大学研究紀要』第10号に報告)</p>
<p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>5. 協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムの実施およびドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の各「カフェ」の活動。</p> <p>7. 日本語系ではFDとしての研究会を年に6回以上開催する。</p>	<p>1. 英語系では、年2回のTeacher Development Workshopのほか、Our ShareやReading Groupをほぼ毎月開催し、英語カリキュラムの4技能の授業に関する内容的及び方法的な研究を進めるとともに、情報の共有を図った。(年報)</p> <p>2. 初修外国語系では「教授法検討作業部会」において「総合」クラスの学習効果について検討した。また、それぞれの言語文化圏に関する紀要論文などの研究発表を行った。</p> <p>3. 日本語系では、論文等の出版、研究発表を合わせて7件(一人平均1.8件)行った。(添付資料)</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>1. 英語系では、新カリキュラムの4技能の授業に関連する内容的及び方法的な研究を進める。</p> <p>2. 初修外国語系では、各語種共通の教授法改善に関する研究、それぞれの言語文化圏に関する研究を進める。</p> <p>3. 日本語系では、日本語教育及び日本語に関する研究を行い、その結果を論文及び発表の形で公開する。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、年2回のTeacher Development Workshopのほか、Our ShareやReading Groupをほぼ毎月開催し、英語カリキュラムの4技能の授業に関する内容的及び方法的な研究を進めるとともに、情報の共有を図った。(年報)</p> <p>2. 初修外国語系では「教授法検討作業部会」において「総合」クラスの学習効果について検討した。また、それぞれの言語文化圏に関する紀要論文などの研究発表を行った。</p> <p>3. 日本語系では、論文等の出版、研究発表を合わせて7件(一人平均1.8件)行った。(添付資料)</p>
<p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>3. 日本語系では論文・著書等の出版または学会での研究発表数を4件以上(一人平均1件以上)行う。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. ①英語系では、特別公開講座、公開講座、ムービー・ナイトをそれぞれ1回開催した。初修外国語系では、特別公開講座として、6月11日にベルギー映画『はちみつ色のユン』上映会、10月4日にシンポジウム「嘘からでる真実(まこと)ー 嶋中博章『太陽王時代のメモワール作者たち』と文学表現としての歴史記述」、12月3日に賞善嫌ソウル大学校副教授講演『世宗と訓民正音ーハングル誕生の話ー』を開催した。日本語系では、特別公開講座を2回実施した。(年報)</p> <p>②初修外国語系では、フランス語技能検定試験(仏検)春季1次試験、2次口述試験と秋季1次試験、及びドイツ語検定試験(独検)秋期試験の岡山会場責任者を務めた。</p> <p>2. 英語系では、イングリッシュ・オン・キャンパス、オープン・キャンパス、高校生のための大学講座、L-caféへの高校生来訪などを通して、高校生を対象に大学における英語授業を体験する機会をもうけた。(年報)</p> <p>3. 日本語系では、日本語教育副専攻コースに7名の社会人を受け入れた。(年報)</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標</p> <p>1. 外国語の学習を通して人と文化についての理解を深めるといった観点から</p> <p>①一般市民に公開された講座や講演を実施する(英語系、初修外国語系、日本語系)。</p> <p>②「独検」と「仏検」の岡山会場責任者を務める。「韓国語能力試験」、「漢語水平考査」の岡山実施を支援する。</p> <p>2. 高校生を対象に大学における英語授業を体験する機会をもうける。</p> <p>3. 日本語系では日本語教育副専攻コースに社会人を受け入れ、大学と社会との連携を深める。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. ①英語系では、特別公開講座、公開講座、ムービー・ナイトをそれぞれ1回開催した。初修外国語系では、特別公開講座として、6月11日にベルギー映画『はちみつ色のユン』上映会、10月4日にシンポジウム「嘘からでる真実(まこと)ー 嶋中博章『太陽王時代のメモワール作者たち』と文学表現としての歴史記述」、12月3日に賞善嫌ソウル大学校副教授講演『世宗と訓民正音ーハングル誕生の話ー』を開催した。日本語系では、特別公開講座を2回実施した。(年報)</p> <p>②初修外国語系では、フランス語技能検定試験(仏検)春季1次試験、2次口述試験と秋季1次試験、及びドイツ語検定試験(独検)秋期試験の岡山会場責任者を務めた。</p> <p>2. 英語系では、イングリッシュ・オン・キャンパス、オープン・キャンパス、高校生のための大学講座、L-caféへの高校生来訪などを通して、高校生を対象に大学における英語授業を体験する機会をもうけた。(年報)</p> <p>3. 日本語系では、日本語教育副専攻コースに7名の社会人を受け入れた。(年報)</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. ①日本語系では特別公開講座を年2回実施する。</p> <p>3. 日本語系では日本語教育副専攻コースに複数の社会人学生を受け入れる。</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、英語新カリキュラム及びグローバル人材育成特別コースの英語プログラムの実施計画を策定し実施した。また、「総合英語5」の履修希望調査等、平成27年度開講準備の実務作業を行った。作業の際に発生した問題はその都度話し合いにより解決し、次年度はより円滑に作業できるようにした。社会文化科学研究科と自然科学研究科において、ネイティブ英語教員による科目を開講した。初修外国語系では、社会文化科学研究科共通科目として「基礎ドイツ語1、2」を開講した。</p> <p>2. 英語系では、Teacher Development Workshop、Our Share、Reading Group、特別公開講座、公開講座を実施した。(年報)</p> <p>3. 英語系では、ムービー・ナイトを開催した。初修外国語系では、協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムを実施した。(年報)</p> <p>4. L-café及び一般教育棟内において、イングリッシュ・カフェ、ドイツ語・韓国語・中国語・フランス語・日本語の各カフェ活動を行うとともに、L-café、語学演習室及び関連施設の管理・運営を行った。授業期間中は、イングリッシュ・カフェは平日毎日、ドイツ語・フランス語・韓国語は週1回、中国語・日本語のカフェは週2回開催した。(年報)</p> <p>5. 特別公開講座、公開講座、ムービー・ナイトを開催した。(年報)</p> <p>6. 言語教育センター「年報」「パンフレット」を刊行した。(年報、平成27年度パンフレット)</p> <p>7. 外国語教授法研究・異文化研究を行い、紀要論文等の出版及び学会発表を行った。</p>
<p>④センター業務</p> <p>④-1 目標</p> <p>共通外国語教育の立案・実施・改善に責任を持ち、全体的な観点から以下の業務を主体的に進める。</p> <p>1. 共通外国語教育(大学院を含む)および留学生のための日本語教育の実施計画策定とその遂行</p> <p>2. 外国語教育FD活動の実施</p> <p>3. 国際交流・連携事業の実施</p> <p>4. L-café、語学演習室および関連施設の管理・運営</p> <p>5. 言語・外国語文化に関する、地域社会との連携事業の実施</p> <p>6. 本学における外国語教育実施状況とその成果の広報</p> <p>7. 外国語教授法研究・異文化研究の推進と支援</p>	<p>自己評価</p> <p>1. 英語系では、英語新カリキュラム及びグローバル人材育成特別コースの英語プログラムの実施計画を策定し実施した。また、「総合英語5」の履修希望調査等、平成27年度開講準備の実務作業を行った。作業の際に発生した問題はその都度話し合いにより解決し、次年度はより円滑に作業できるようにした。社会文化科学研究科と自然科学研究科において、ネイティブ英語教員による科目を開講した。初修外国語系では、社会文化科学研究科共通科目として「基礎ドイツ語1、2」を開講した。</p> <p>2. 英語系では、Teacher Development Workshop、Our Share、Reading Group、特別公開講座、公開講座を実施した。(年報)</p> <p>3. 英語系では、ムービー・ナイトを開催した。初修外国語系では、協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムを実施した。(年報)</p> <p>4. L-café及び一般教育棟内において、イングリッシュ・カフェ、ドイツ語・韓国語・中国語・フランス語・日本語の各カフェ活動を行うとともに、L-café、語学演習室及び関連施設の管理・運営を行った。授業期間中は、イングリッシュ・カフェは平日毎日、ドイツ語・フランス語・韓国語は週1回、中国語・日本語のカフェは週2回開催した。(年報)</p> <p>5. 特別公開講座、公開講座、ムービー・ナイトを開催した。(年報)</p> <p>6. 言語教育センター「年報」「パンフレット」を刊行した。(年報、平成27年度パンフレット)</p> <p>7. 外国語教授法研究・異文化研究を行い、紀要論文等の出版及び学会発表を行った。</p>
<p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>1. 英語系では、英語新カリキュラム及びグローバル人材育成特別コースの英語プログラムの実施計画を策定し実施した。また、「総合英語5」の履修希望調査等、平成27年度開講準備の実務作業を行った。作業の際に発生した問題はその都度話し合いにより解決し、次年度はより円滑に作業できるようにした。社会文化科学研究科と自然科学研究科において、ネイティブ英語教員による科目を開講した。初修外国語系では、社会文化科学研究科共通科目として「基礎ドイツ語1、2」を開講した。</p> <p>2. 英語系では、Teacher Development Workshop、Our Share、Reading Group、特別公開講座、公開講座を実施した。(年報)</p> <p>3. 英語系では、ムービー・ナイトを開催した。初修外国語系では、協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムを実施した。(年報)</p> <p>4. L-café及び一般教育棟内において、イングリッシュ・カフェ、ドイツ語・韓国語・中国語・フランス語・日本語の各カフェ活動を行うとともに、L-café、語学演習室及び関連施設の管理・運営を行った。授業期間中は、イングリッシュ・カフェは平日毎日、ドイツ語・フランス語・韓国語は週1回、中国語・日本語のカフェは週2回開催した。(年報)</p> <p>5. 特別公開講座、公開講座、ムービー・ナイトを開催した。(年報)</p> <p>6. 言語教育センター「年報」「パンフレット」を刊行した。(年報、平成27年度パンフレット)</p> <p>7. 外国語教授法研究・異文化研究を行い、紀要論文等の出版及び学会発表を行った。</p>

【総括記述欄】

管理・運営面では、センター内の委員会・作業部会等の運営はスムーズであった。しかし、60分授業・クォーター制の導入に対応するための全学委員会等において、英語教員配置を考えた学生500～600人グループの提案及び語学学習意欲の高い学生のための柔軟な時間割の要望を行ってきたが、柔軟性のない時間割が提示され、教室不足等を理由に却下され、本センターが目指す授業時間割を組むことはかなわなかった。(例)全学部対象の語学の選択科目の時間帯は7限しか選択肢がなく、3・4年次の理系学生の場合、7限では実験の時間と重なるため履修が困難である。そこで、理系学生も履修可能な60分の選択科目で通年1箇所の提案を試みたが、問題の部分的な解決にとどまった。初修外国語系では、新時間割への非常勤講師の対応が困難なため、平成28年度からイタリア語・スペイン語・ロシア語を教養外国語科目として開講することができなくなった。

英語系では、英語新カリキュラムの導入2年目の検証を行った。入学時にTOEIC 400点以下のグループでは、1年次4月よりも2年次12月には平均点が高くなっていた。1・2年次に、週1回から週2回に必修授業が倍増したことにより、英語基礎力をつけて維持するのにある程度の効果があることがわかった。しかし、入学時にTOEICスコアが高いグループではスコアを維持するのが困難であり、入学時に平均点が高かったグループでは、1年次4月よりも2年次12月には平均点が下がっていた。また、2年次に週2回の英語を履修する基本カリキュラムグループと、2年次の英語を必修にしない学部、2年次は英語授業週1回のみ、あるいは2年次後期は全く英語授業のない学部・学科を含む変則カリキュラムグループを比較すると、前者(レンジ:-2.5～-38)より後者の平均点の低下(レンジ:-40.5～-102.7)が大きかった。平成27年度は、授業担当教員による新入生用英語カリキュラムとL-café/パンフレットの配布・内容説明、及び前期に特別公開講座を開催することにより、早期の新入生の意識啓発に努めることとした。平成28年度からの改訂カリキュラムでは、4技能を組み合わせた改良型の科目に移行させ、コマ数が減る中でも効果的な英語カリキュラムの策定に向けて、検討の最終段階にある。

日本語系においても改訂カリキュラムの検証を行い、学生・担当教員に概ね肯定的に捉えられていることがわかった。検証の結果明らかになった改善点については、平成27年度カリキュラムに反映させた。

初修外国語系では、国際交流事業として上海理工大学交流プログラム及び成均館大学校交流プログラムを開催し、計48人の学生の参加があった。予算等の問題から、上海理工大学交流プログラムは平成27年度で終了することになった。L-caféでは、カフェ活動の充実により利用者数が少しずつ増え、本年度も2万人を超える利用者があった。3月にL-caféの一部改装を行い、カフェ機能の向上を図った。アンケート調査によるニーズ分析結果は次年度のレッスン開催及びイベント等のカフェ活動に反映させ、日本人学生及び留学生の利用者数の増加を図る。